



商工中金景況調査（2024年11月調査・定例分）の公表について

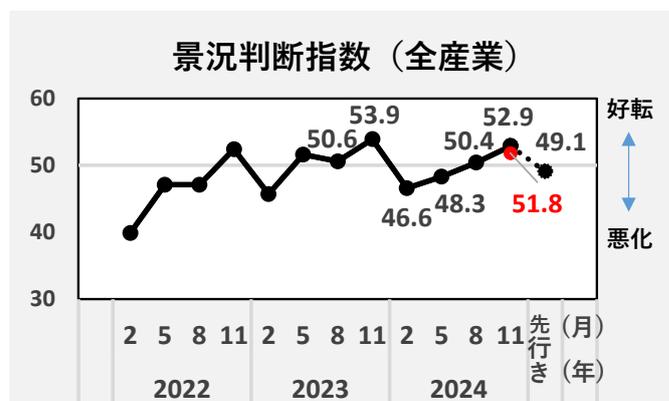
商工中金は概ね四半期に一度、中小企業の景況感などの実態把握のため景況調査を実施しており、今般2024年11月調査のうち毎回共通の質問項目（定例分）の結果について公表しました。

<2024年11月の景況感>

11月の景況判断指数は2期連続で「好転」超

11月の景況判断指数は52.9と昨年同月以来の「好転」超となりました。景況感を「不変」と回答する企業の割合(※)は過去最高水準であり、小康状態にあることがうかがえます。

先行きは49.1と「悪化」超に転じる見通しです。中国の景気動向や米政権交代、物価上昇、人手不足などから、先行きに不透明感を感じる声が寄せられました。

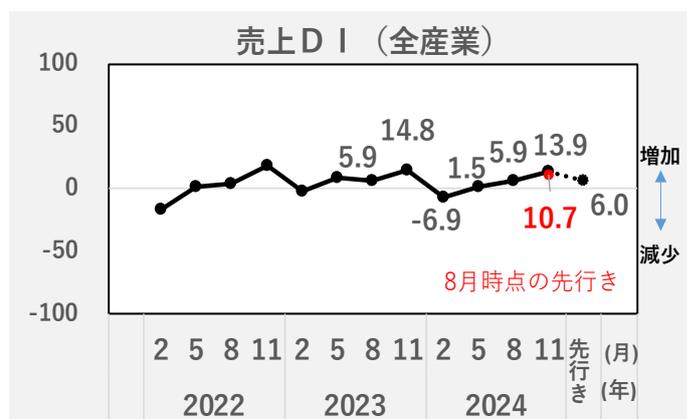


<2024年11月の業況判断>

【売上】製造業、非製造業ともに「増加」超

売上は製造業、非製造業ともに「増加」超となりました。

諸コストの価格転嫁が進捗する一方で、販売数量に与えるマイナス影響から適正価格の設定について悩む声も聞かれ、先行きにかけて「増加」超幅は縮小を見込んでいます。



- ・本編資料は[こちら](#)をご覧ください。
- ・トピックス調査分(【速報版】中小企業の賃上げの動向について)は本調査と同日に公表しております。